

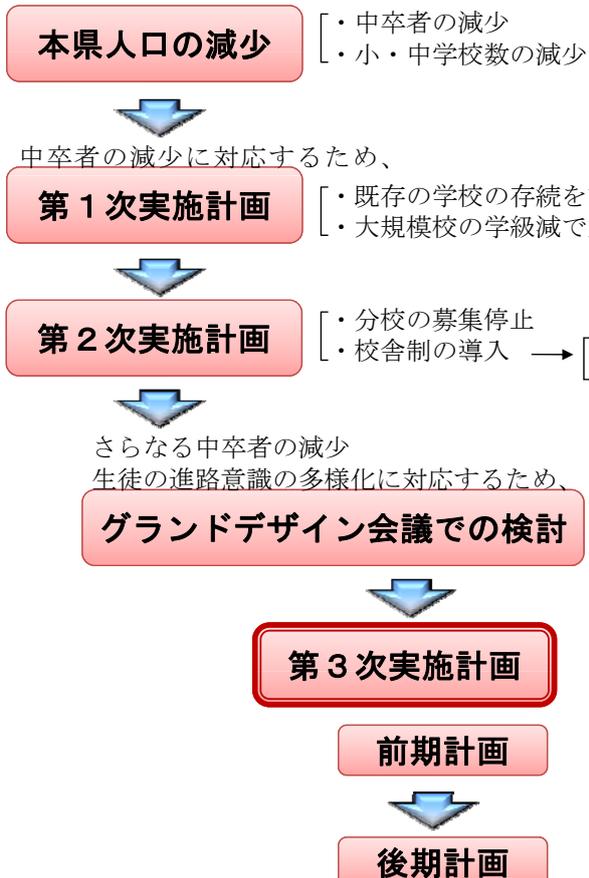
県立高等学校教育改革 第3次実施計画に関する 地区説明会

平成23年

8月22日(月)	【中南地区】	弘前市立中央公民館	大会議室
8月25日(木)	【西北地区】	五所川原市中央公民館	大ホール
8月26日(金)	【東青地区】	県総合社会教育センター	大研修室
8月29日(月)	【上北地区】	十和田市中央公民館	ホール
8月30日(火)	【三八地区】	八戸市総合福祉会館	多目的ホール
8月31日(水)	【下北地区】	むつ市中央公民館	講堂

青森県教育委員会

本日の説明の概要



スライドの項目

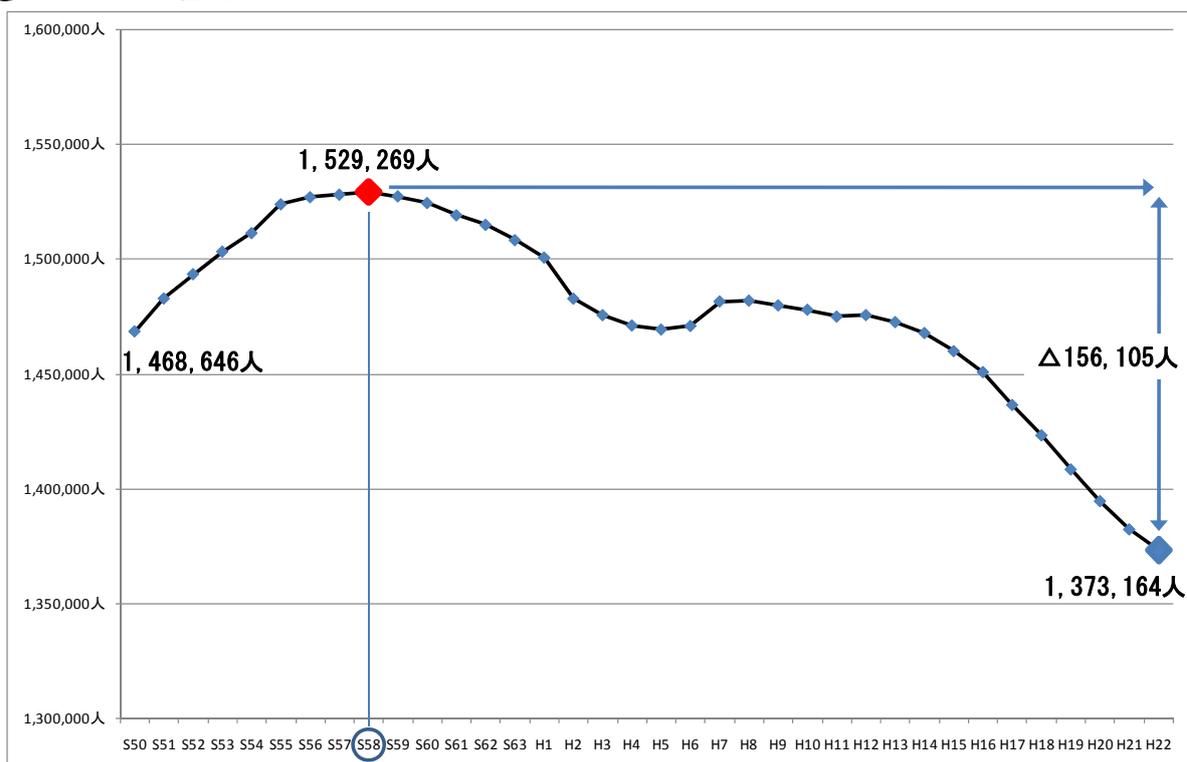
- 1 高等学校を取り巻く状況
- 2 第3次実施計画策定までの取組
- 3 第3次実施計画の基本的な考え方と具体的な実施計画【前期】の実施状況
- 4 今後の中学校卒業予定者数の推移
- 5 今後のスケジュール

1 高等学校を取り巻く状況

2

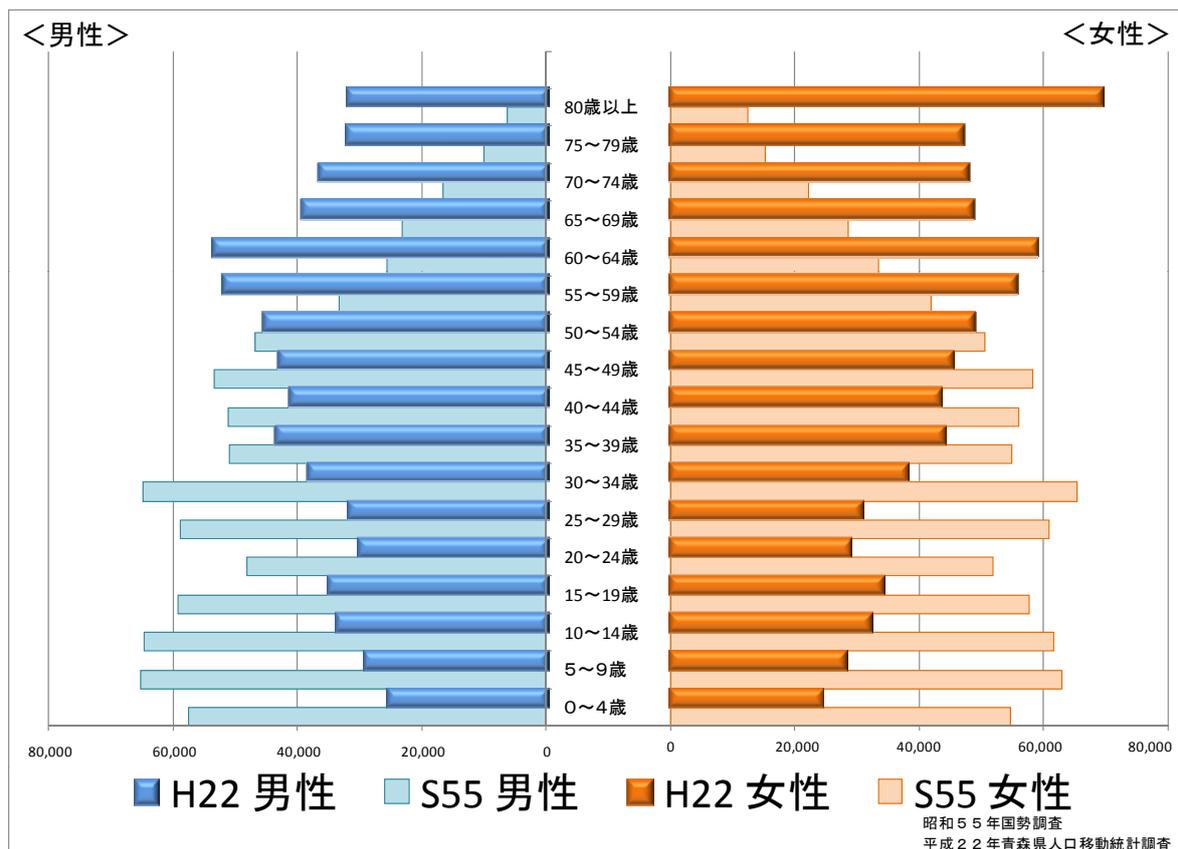
(1) 本県人口の状況

①人口の推移

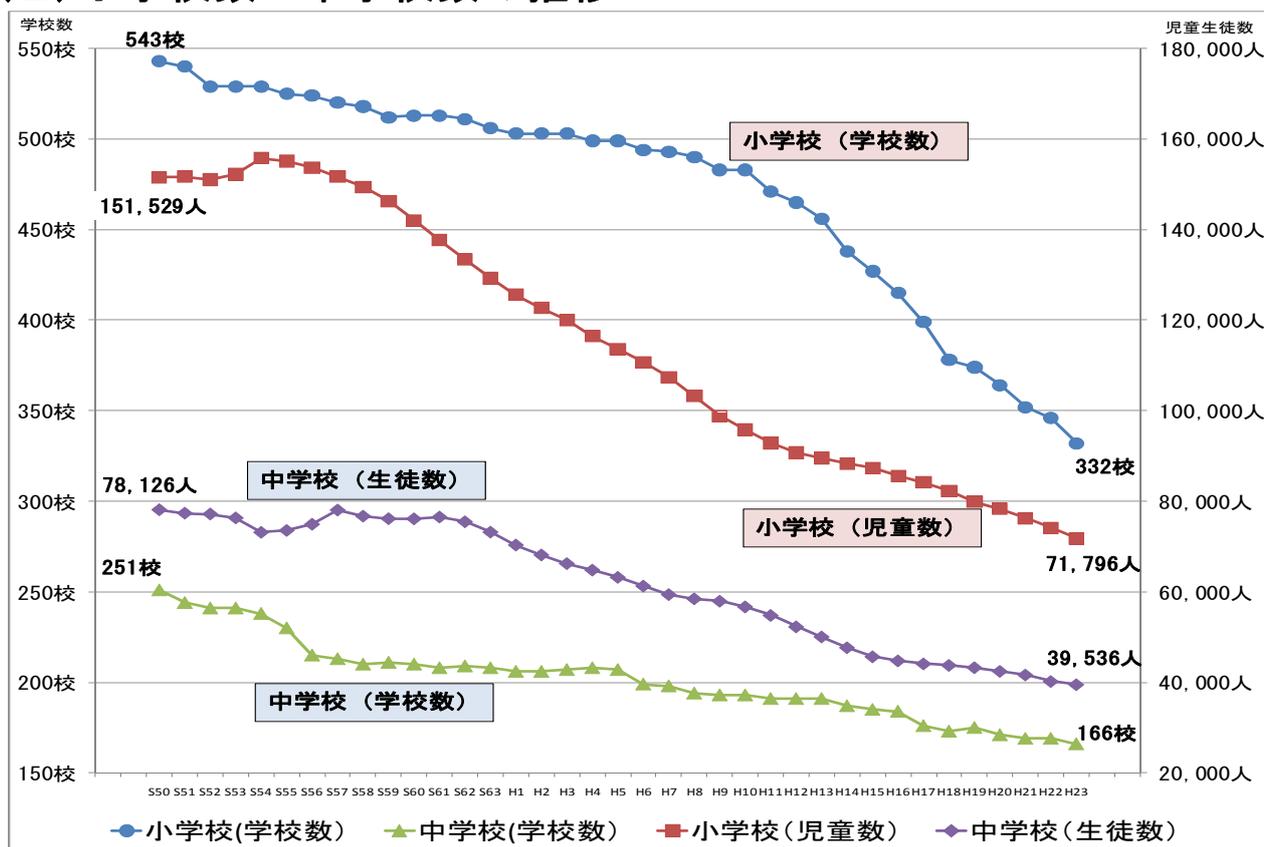


3

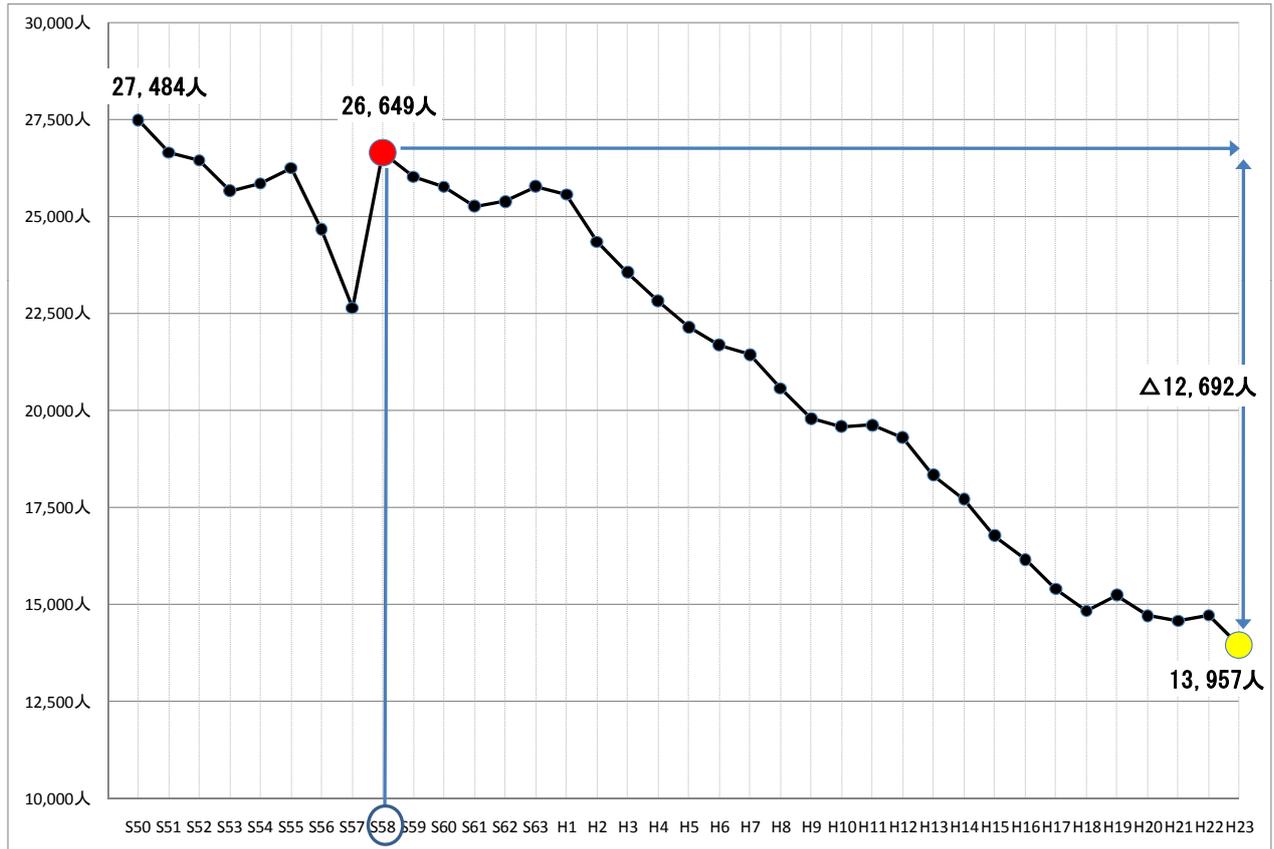
②年齢構成（昭和55年と平成22年の比較）



(2) 小学校数・中学校数の推移

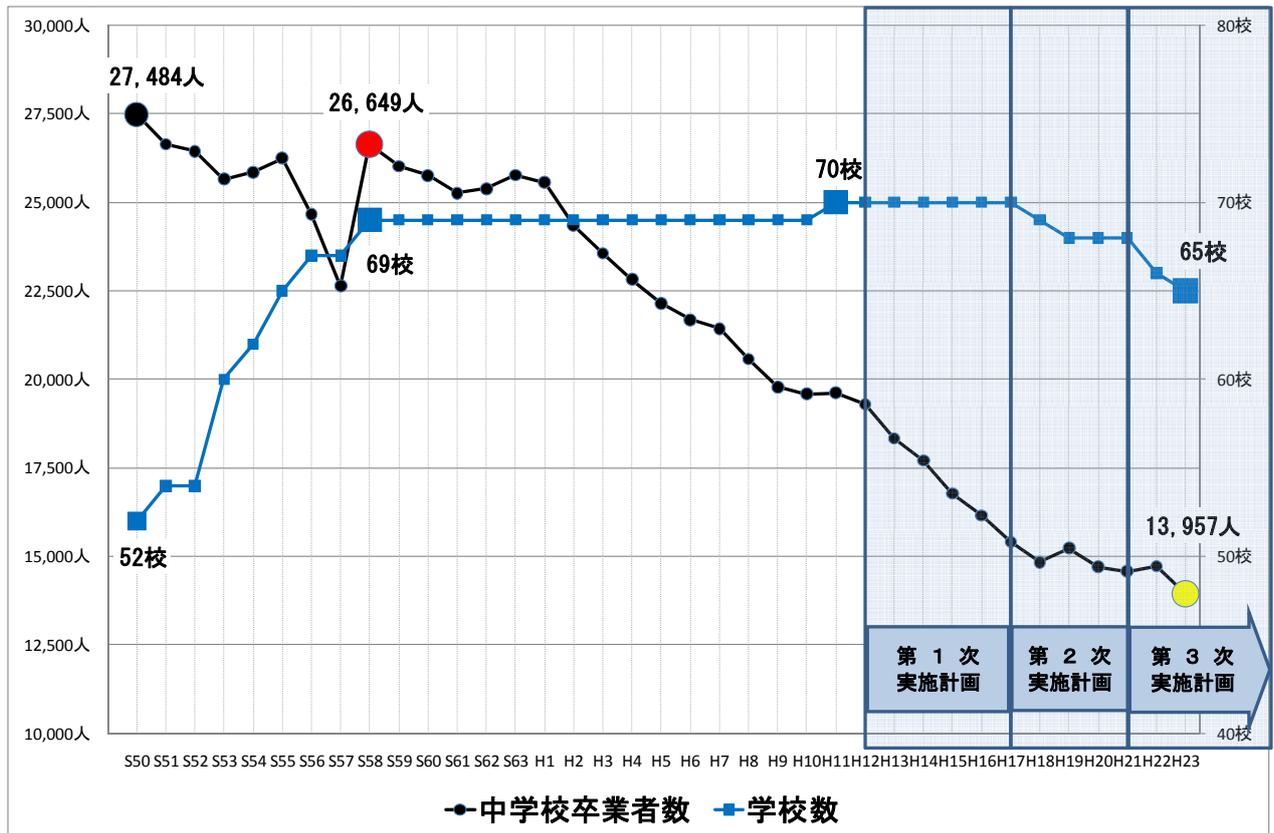


(3) 中学校卒業生数の推移



各年3月の中学校卒業生数を示す 6

(4) 県立高等学校数の推移



2 第3次実施計画策定までの取組

8

(1) 第1次実施計画及び第2次実施計画の取組

「21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」
青森県高等学校教育改革推進検討会議（平成9～10年度）



県立高等学校教育改革第1次実施計画（平成12年度～平成16年度）



県立高等学校教育改革第2次実施計画（平成17年度～平成20年度）

- | | |
|----------------|----------------|
| ①総合学科の拡充 | ②普通科の全日制単位制の導入 |
| ③特色ある学科・コースの設置 | ④中高一貫教育の導入 |
| ⑤定時制教育の整備 | |

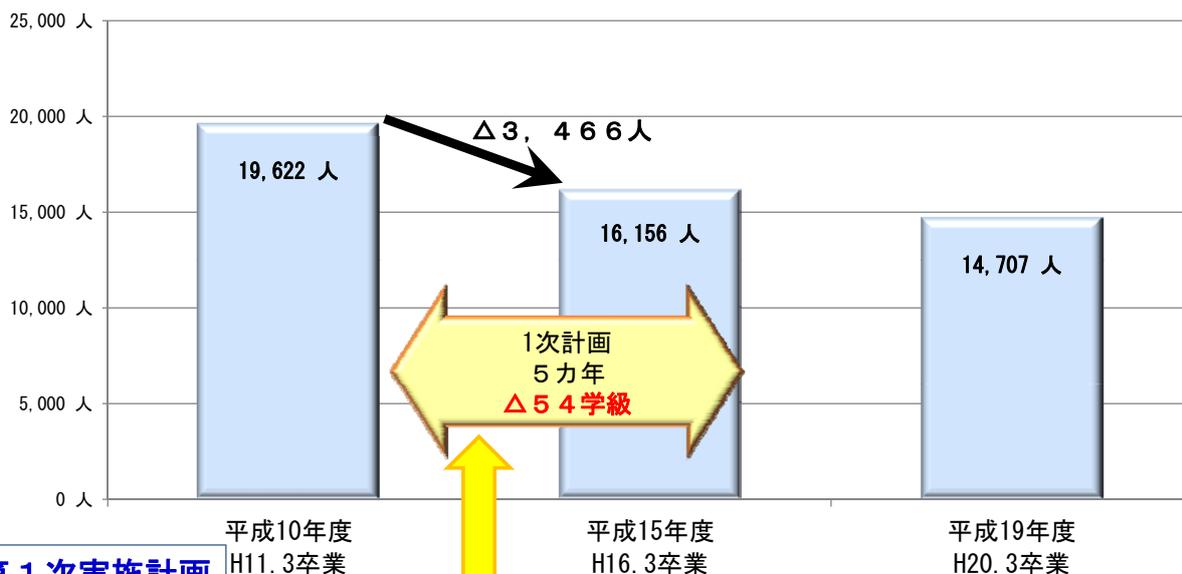
※総合学科…生徒の能力・適性・興味・関心に応じて普通教育と専門教育にわたる幅広い教科・科目の中から選択して学習し、基礎的・基本的な学力を身に付け、自己の進路への自覚を深め、進学・就職に対応できるようにすることを目的とした学科

※全日制単位制…全日制課程において学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度

※特色ある学科・コース…スポーツ科学科、表現科 等
国際教養コース、スポーツ科学コース 等

9

①第1次実施計画の取組



第1次実施計画

- ・既存の学校を可能な限り存続させる
- ↓
- ・市部の学校を中心に学級減

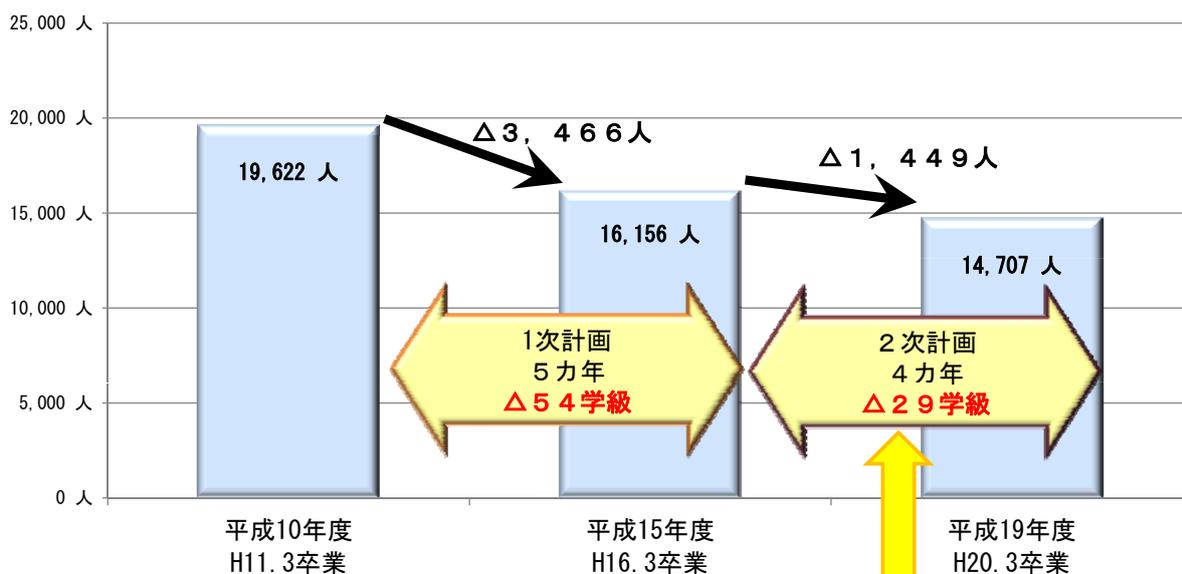
- ・市部の学校では志願倍率が高いまま推移
- ・町村部の小規模校では
地元生徒の占める割合の低下
大幅な定員割れ

平成16年3月中学校卒業者の進路志望調査(1次)

- ・三市にある高校 1.37倍
- ・三市以外の市部にある高校 1.11倍
- ・町村部にある高校 0.81倍

10

②第2次実施計画の取組



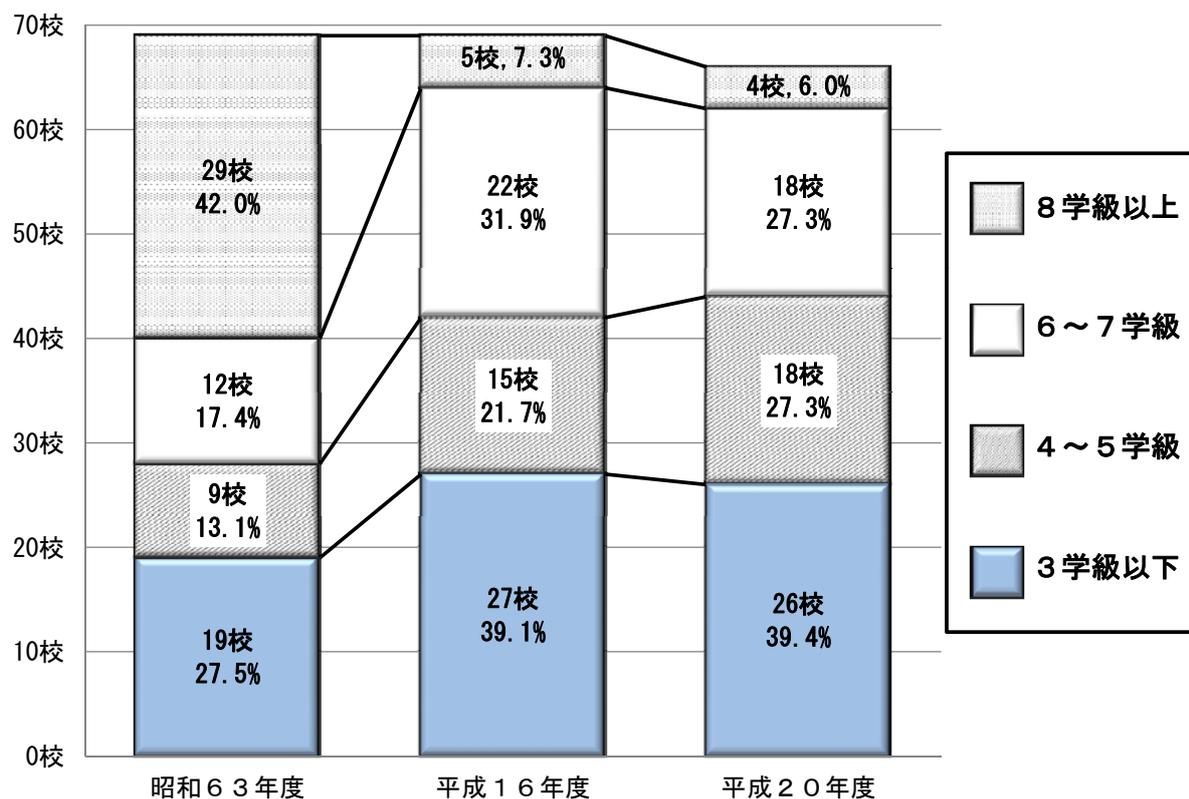
第2次実施計画

- 1次計画と同様の考え方で対応した場合
- ↓
- 市部の学校において一層の学級減
- ↓
- 生徒や保護者の進路志望と一層の乖離

- ・分校の募集停止
- ・市部の3学級以下の学校の募集停止
- ・町村部の1学年3学級以下の学校
→地元生徒の志願・入学状況を踏まえ学級減
→1学級募集の学校は校舎制へ切り替え

11

③学校規模の推移（1学年あたりの学級数）



12

④小規模化の課題

小規模校では、教員が生徒一人一人の特性を把握し、個別の指導をすることができる一方、小規模化の課題として、

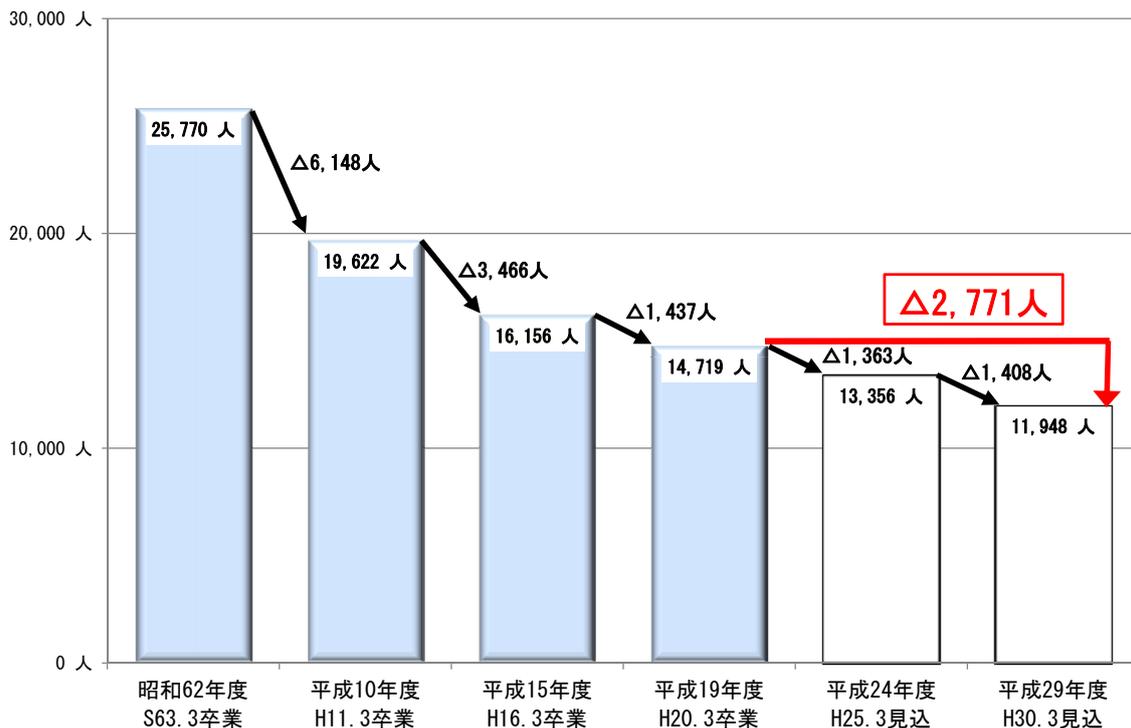
- ・ 生徒の進路実現に必要な教科・科目の設定が難しい
- ・ 集団の中の生徒同士が切磋琢磨できる機会が少ない
- ・ 学校行事や部活動の選択肢が狭まる



生徒数が少ないことによる制約がある中で、
生徒に十分な教育環境を提供するには限界が生じている

13

⑤平成20年度以降の中学校卒業予定者数の減少への対応



14

(2) 高等学校グランドデザイン会議での検討

◎高等学校を取り巻く環境に大きな変化

- ・ 中学校卒業生数のさらなる減少
(平成30年3月には、平成20年3月から約2,700人減少)
- ・ 産業構造や就業構造の変化
- ・ 生徒の進路意識の多様化

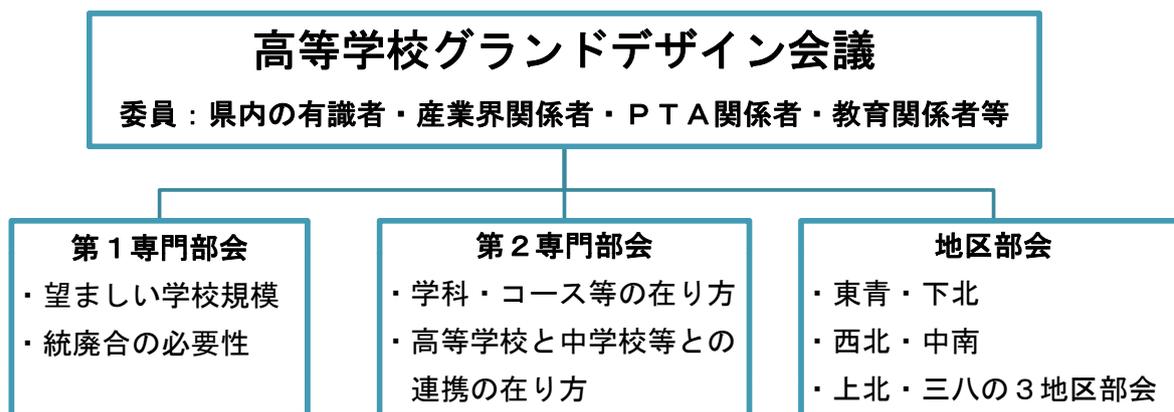


◎今後の県立高等学校の在り方

- ・ 本県高等学校教育の水準の維持・向上
- ・ 活力ある教育活動の展開
- ・ 高校生が夢を育むことができる環境

15

(2) 高等学校グランドデザイン会議での検討



◎答申の概要（平成19年10月10日）

- ① 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方
- ② 社会の変化と生徒の多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方
- ③ 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方

16

3 第3次実施計画の基本的な考え方と具体的な実施計画【前期】の実施状況

17

(1) 第3次実施計画策定までの経緯

平成18年 5月～	高等学校グランドデザイン会議での検討
平成19年10月	高等学校グランドデザイン会議からの答申
平成19年10月～	高校教育改革推進庁内検討委員会設置 具体の実施計画の検討
平成20年 1月	県立高等学校教育改革第3次実施計画（素案）
平成20年 3月	県立高等学校教育改革第3次実施計画（案）
平成20年 4月～	パブリック・コメントの実施 県内6地区における説明会の開催
平成20年 8月	県立高等学校教育改革第3次実施計画 策定

- ①平成21年度以降の10年間を見通した
高校教育改革の基本的な考え方
- ②平成21年度から平成25年度までの
具体的な実施計画【前期】

18

(2) 基本方針

①実施計画策定の背景

◎高等学校の役割

- ・ 自立した社会人として生きるための様々な資質を身につける場
- ・ 将来の生き方を考え、進路を決定する場



○学力向上に向けた教育内容の充実

○生徒が互いに「切磋琢磨」できる環境での多様な教育活動の展開

- ・ 社会性をはぐくみ、自ら考え、行動する力を身に付けさせる
- ・ 主体的な進路選択を行うための勤労観・職業観を身に付けさせる

19

②実施計画策定の視点

○生徒一人一人に確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、自らの進路実現に向けた主体的な進路選択が可能となるよう、各学校の実態に応じた**教育内容・方法の充実・改善**に努める

○発達段階に応じた組織的・系統的な教育を展開するため、**学校種間の連携**や**地域の様々な教育資源の活用**を図るとともに、教員の資質向上に向けた取組を推進する

○活力ある教育活動と生徒が切磋琢磨できるよう教育環境の充実に向けて、地域の実情に配慮しつつ、統合を含めた**適正な学校規模・配置**を図る

○生徒一人一人の個性を十分に生かし、多様な進路志望に対応するため、各校種における弾力的な教育の展開とともに、**学科・コース等の再編整備**を図る

20

(3) 第3次実施計画における4つの視点

1 県立高等学校における教育内容・方法

○各学校の実情に応じた学習指導や生徒指導によって、生きる力を育むとともに、教育活動全体を通じた進路指導を展開する

①確かな学力を身に付ける教育の推進

- ・ **学習習慣形成のための校種間連携教育推進事業**
- ・ 言語力向上推進プロジェクト 等

②逞しい心と体を育む教育の推進

- ・ 高校生地域貢献推進事業
- ・ **ドリカム人づくり推進事業** 等

③社会の変化に対応する教育の推進

- ・ **高校生スキルアッププログラム推進事業**
- ・ 高校生による青森県とメイン州の交流事業 等

④教育活動全体を通じた進路指導の推進

- ・ **企業と学校とのハンド・イン・ハンド事業**
- ・ 医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業 等

21

2 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方

① 中学校と高等学校の連携

○生徒や教員の定期的な交流や、中・高の教員が連携した教材研究・開発等により、中学校と高等学校の円滑な接続に取り組む

- ・ 中高連携協議会の開催、中高のつなぎ教材の共同開発
- ・ 公立中学校・県立高等学校教員の人事交流

○連携型中高一貫教育について見直しを進める

- ・ 田子地域では取組を検証、むつ地域では解消

○三本木高等学校附属中学校について検証を行うとともに、全県的な配置バランスを考慮し、併設型中高一貫教育校を設置することを検討する

- ・ 県立三本木高等学校附属中学校における教育効果を検証

22

② 高等学校と大学等との連携

・ 専門的学習に意欲や関心を持つ高校生に、大学レベルの教育・研究環境に接する機会の充実を図る

・ 地域の人材や研究機関等を活用した教育活動の展開により、地域や社会に貢献できる人材の育成を図る

→ **高大連携キャリアサポート推進事業**

(大学生との交流(ワークショップ)による高校生のキャリア形成支援)

③ その他の連携・協力の推進

・ 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を始め、教育行政、大学、地域の関係機関の連携を図る

→ **教育支援プラットフォームの構築に関する調査研究事業**

(学校と地域の連携による教育活動の充実に向けた仕組みの構築)

青森県教育委員会と弘前大学教育学部との連携・協力

青森県教育委員会と八戸工業大学との連携・協力

23

3 県立高等学校の適正な学校規模・配置

①望ましい学校規模

- ・生徒の進路実現に必要な教科・科目の設定
- ・集団の中の生徒同士による切磋琢磨
- ・社会に出て行くための逞しい心の涵養
- ・多様な学校行事や部活動の選択肢の確保

等が重要



活力ある教育活動の維持には、
一定規模以上の学校が望ましい

24

①望ましい学校規模

○青森市・弘前市・八戸市の普通高校と、その他の市町村にある普通高校は、それぞれの視点で考える



- ・青森市・弘前市・八戸市の人口規模が他と比べて大きい
- ・近隣の市町村から青森市・弘前市・八戸市の普通高校へ進学を希望する中学生が多い

○普通高校以外は、これまでの志願・入学状況などに対応し、学校規模が多様



◎望ましい学校規模

- ・三市の普通高校は、1学年当たり6学級以上の学校規模
- ・そのほかの全ての高等学校は、1学年4学級以上の学校規模

- ・全県的に例外なく統廃合を検討
- ・他校への通学が困難な地域にある高等学校への配慮
- ・校舎制導入校は、志願・入学状況により統廃合を検討

※校舎制…法的には分校。本校との連携・協力により教育内容の充実に努める制度。

25

(参考1) 学校の規模別に見る学習科目例 (地理歴史、公民)

	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	地理 A	地理 B	現代社会	倫理	政治経済	合計
2学級規模		●		●			●		●	4科目
4学級規模	●	●	●		●	●	●		●	7科目
6学級規模	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9科目

26

(参考2) 学校の規模別に見る学習科目例 (理科)

	A 理科総合 又は B	物理 I	物理 II	化学 I	化学 II	生物 I	生物 II	地学 I	地学 II	合計
2学級規模	●	●		●		●				4科目
4学級規模	●	●	●	●	●	●	●			7科目
6学級規模	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9科目

27

(参考3) 学校の規模別に見る運動部設置例

	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	バドミントン	卓球	サッカー	剣道	柔道	弓道	空手道	水泳	スキー	合計
2学級規模	●	●	●	●	●						●				●			7部
4学級規模	●	●	●	▲		●	●		●	●	▲	●					●	11部
6学級規模	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●		14部

※▲は男子若しくは女子のみ在籍。

(参考4) 学校の規模別に見る文化部設置例

	書道	美術	写真	茶道	華道	吹奏楽	演劇	英語	放送	文芸	イラスト	家庭	ポランティア	自然科学	パソコン	商業	合計
2学級規模						●							●		●		3部
4学級規模	●		●			●	●						●			●	6部
6学級規模	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		14部

②学校配置

○望ましい学校規模になるよう6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移、社会や生徒のニーズに対応した普通科等・職業学科・総合学科の割合という観点から計画的に統合等を進める

- ・各地区の普通科等・職業学科・総合学科の配置割合は、地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより異なっていることに十分配慮する
- ・他の学校への通学が困難である場合などは、柔軟な学校配置等にも配慮する
- ・統合については、同じ分野の高校を優先して進める

○既存の1学年1学級規模の校舎制導入校は、計画的に募集停止する

- ・生徒の入学状況等により、実施年度を変更することもある



②学校配置



◎統合等の実施状況及び今後の予定

【全日制課程】

東青地区→青森戸山高等学校（平成23年度）

中南地区→弘前南高等学校大鱈校舎（平成23年度）

尾上総合高等学校（平成23年度）

上北地区→七戸高等学校八甲田校舎（平成21年度）

下北地区→田名部高等学校大畑校舎（平成25年度を予定）

三八地区→八戸南高等学校（平成23年度）

南部工業高等学校（平成25年度を予定）

③定時制課程及び通信制課程の今後の方向性

- 6地区に普通科の定時制課程を置く学校を各1校配置することを基本とする
- 工業高校の定時制課程は、普通科の選択科目の中で職業に関する科目を学習する等の方法を考慮した上で、見直しを検討する
- 3部制の定時制独立校の中南地区への設置を推進する
 - ※3部制 … 午前、午後、夜間の時間帯で授業を行う
- 通信制の課程については、望ましい指導体制の在り方について検討する



◎統合等の予定

【定時制課程】

中南地区→弘前中央高等学校（平成25年度を予定）

黒石高等学校（平成25年度を予定）

尾上総合高等学校を定時制3部制総合学科に転換

（平成25年度を予定）

32

4 社会の変化と生徒の多様な進路志望に対応する学科・コース等

①普通科等

- 基礎的・基本的な学力の定着と、応用力を含め、学力の向上を図る
- 普通系の専門学科・コースにおいて、志願者の状況等により、社会や生徒のニーズを踏まえて見直しを検討する



[普通科系の専門学科・コースの再編整備]

○人文学科（平成22年度）

・青森西高等学校・弘前中央高等学校の人文学科を普通科に転換

○理数科（平成22年度）

・三本木高等学校の理数科を普通科に転換

○美術科（平成23年度）

・青森戸山高等学校の美術科を募集停止

33

②職業学科

- 専門化・細分化した学科について、生徒の志願・入学状況等を踏まえ再編整理を進める
- 入学後に柔軟な学科選択が可能となるよう、学校の実情に応じて、**くくり募集**を導入する

※くくり募集…複数の学科をまとめて募集し、入学後のガイダンス等を経て希望学科を選択する募集方法



○農業高校

- ・五所川原農林高等学校・三本木農業高等学校の学科改編（平成22年度）
- ・名久井農業高等学校に新学科設置（平成25年度を予定）

34

②職業学科



○工業高校

- ・青森工業高等学校、十和田工業高等学校、むつ工業高等学校の学科改編（平成23年度）
- ・青森工業高等学校インテリア科の募集停止（平成21年度）
- ・八戸工業高等学校工業化学科の募集停止（平成21年度）
- ・五所川原工業高等学校電子科の募集停止（平成23年度）
- ・弘前工業高等学校電子機械科の募集停止（平成25年度を予定）
- ・八戸工業高等学校の学科改編（平成25年度を予定）

○商業高校

- ・青森商業高等学校、三沢商業高等学校の学科改編（平成22年度）
- ・青森商業高等学校、黒石商業高等学校、三沢商業高等学校の3校で「くくり募集」を実施（平成22年度）
- ・百石高等学校、三戸高等学校の商業科を募集停止（平成24年度）
 - 百石高校 → 普通科の中で、商業に関する科目を増やし、商業学習のニーズに対応
 - 三戸高校 → 普通科に商業科目を学べるコースを設置
- ・浪岡高等学校の商業科を募集停止（平成25年度を予定）

35

③総合学科

○生徒の能力・適性、興味・関心、進路志望に対応した系列・選択科目となるよう必要に応じて見直しを検討する

※系列…生徒の科目選択の参考になるように関連科目をまとめたもの



[総合学科] (平成21・23年度)

・大湊高等学校及び青森中央高等学校の系列の見直し

(4)平成25年度における学校規模・配置の状況

①東青地区

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科

平成20年度		平成25年度																										
学校名	学級数	定員	4クラス			6クラス			8クラス			学級数	定員	4クラス			6クラス			8クラス								
青森	7	280	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	7	280	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40				
青森西	6	240	40	40	40	40	40	40					6	240	40	40	40	40	40	40								
青森東	7	280	40	40	40	40	40	40	40				7	280	40	40	40	40	40	40	40							
青森北	6	240	40	40	40	40	40	40					6	240	40	40	40	40	40									
青森南	6	240	40	40	40	40	40	40					6	240	40	40	40	40	40									
青森中央	5	200	40	40	40	40	40						5	200	40	40	40	40	40									
青森戸山	6	230	40	40	40	40	40	30																				
浪岡	3	105	35	35	35																							
青森東・平内校舎	1	40	40																									
青森北・今別校舎	1	40	40																									
青森工業	8	280	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35																
青森商業	6	240	40	40	40	40	40	40																				
地区計	62	学級	2,415人												54	学級	2,115人											

高等学校の1学級あたりの定員は、40人を標準としているが、1学年あたり2～3学級の小規模校や農業・工業・水産高校では35人の定員としている

募集学級数増減

▲ 8学級(対20年)

募集定員増減

▲ 300人(対20年)

② 西北地区

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科

平成20年度															
学校名	学級数	定員	4ヶ年				6ヶ年				8ヶ年				
五所川原	5	200	40	40	40	40	40								
五所川原・東校舎			募集停止												
金木	2	70	35	35											
木造	6	240	40	40	40	40	40	40							
木造・稲垣分校			募集停止												
木造・深浦校舎	1	40	40												
鱒ヶ沢	3	105	35	35	35										
板柳	3	105	35	35	35										
鶴田	2	70	35	35											
中里	2	70	35	35											
五所川原農林	5	175	35	35	35	35	35								
五所川原工業	5	175	35	35	35	35	35								
地区計	34	学級	学級	1,250人											



平成25年度														
学級数	定員	4ヶ年				6ヶ年				8ヶ年				
6	240	40	40	40	40	40	40							1
2	70	35	35											
5	200	40	40	40	40	40								△ 1
1	40	40												
2	70	35	35											△ 1
3	105	35	35	35										
2	70	35	35											
2	70	35	35											
5	175	35	35	35	35	35								
4	140	35	35	35	35	35								△ 1
32	学級	学級	1,180人											

募集学級数増減 ▲ 2 学級 (対20年)
募集定員増減 ▲ 70 人 (対20年)

③ 中南地区

■ 普通科等 ■ 職業学科 ■ 総合学科

平成20年度															
学校名	学級数	定員	4ヶ年				6ヶ年				8ヶ年				
弘前	7	280	40	40	40	40	40	40	40						
弘前中央	6	240	40	40	40	40	40	40							
弘前南	6	240	40	40	40	40	40	40							
弘前南・大霧校舎	1	40	40												
岩木	3	105	35	35	35										
黒石	5	200	40	40	40	40	40								
尾上総合	2	80	40	40											
柏木農業	4	140	35	35	35	35									
弘前工業	8	280	35	35	35	35	35	35	35	35					
弘前実業	8	320	40	40	40	40	40	40	40	40					
弘前実業・藤崎校舎	1	40	40												
黒石商業	4	160	40	40	40	40									
地区計	55	学級	学級	2,125人											



平成25年度														
学級数	定員	4ヶ年				6ヶ年				8ヶ年				
7	280	40	40	40	40	40	40	40						
6	240	40	40	40	40	40	40							
6	240	40	40	40	40	40	40							
		募集停止												△ 1
2	70	35	35											△ 1
5	200	40	40	40	40	40								
		募集停止												△ 2
4	140	35	35	35	35									
7	245	35	35	35	35	35	35	35	35					△ 1
8	320	40	40	40	40	40	40	40	40					
1	40	40												
4	160	40	40	40	40									
50	学級	学級	1,935人											

募集学級数増減 ▲ 5 学級 (対20年)
募集定員増減 ▲ 190 人 (対20年)

④上北地区

普通科等
 職業学科
 総合学科

平成20年度														
学校名	学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス			
三本木	6	240	40	40	40	40	40	40						
十和田西	2	70	35	35										
三沢	7	280	40	40	40	40	40	40	40					
野辺地	4	160	40	40	40	40								
七戸	4	160	40	40	40	40								
七戸・八甲田校舎	1	40	40											
百石	5	200	40	40	40	40	40							
六戸	3	105	35	35	35									
六ヶ所	2	70	35	35										
三本木農業	6	210	35	35	35	35	35	35						
十和田工業	6	210	35	35	35	35	35	35						
三沢商業	5	200	40	40	40	40	40							

地区計 51 学級 学級 1,945人



平成25年度													
学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス			
6	240	40	40	40	40	40	40						
2	70	35	35										
6	240	40	40	40	40	40	40	△ 1					
4	160	40	40	40	40								
4	160	40	40	40	40								
		募集停止											
4	160	40	40	40	40			△ 1					
2	70	35	35	△ 1									
2	70	35	35										
6	210	35	35	35	35	35	35						
5	175	35	35	35	35	35	35						
5	200	40	40	40	40	40		△ 1					

46 学級 学級 1,755人

募集学級数増減 ▲ 5 学級(対20年)

募集定員増減 ▲190 人(対20年)

⑤下北地区

普通科等
 職業学科
 総合学科

平成20年度														
学校名	学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス			
田名部	6	240	40	40	40	40	40	40						
田名部・大畑校舎	1	40	40											
大湊	5	200	40	40	40	40	40							
大湊・川内校舎	1	40	40											
大間	2	70	35	35										
むつ工業	5	175	35	35	35	35	35							

地区計 20 学級 学級 765人



平成25年度													
学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス			
5	200	40	40	40	40	40		△ 1					
		募集停止											
5	200	40	40	40	40	40		△ 1					
1	40	40											
2	70	35	35										
5	175	35	35	35	35	35							

18 学級 学級 685人

募集学級数増減 ▲ 2 学級(対20年)

募集定員増減 ▲ 80 人(対20年)

⑥三八地区

普通科等
 職業学科
 総合学科

平成20年度														
学校名	学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス			
八戸	7	280	40	40	40	40	40	40	40					
八戸東	5	190	40	40	40	40	30							
八戸北	6	240	40	40	40	40	40	40						
八戸西	5	200	40	40	40	40	40							
八戸南	5	200	40	40	40	40	40							
八北・南郷校舎	1	40	40											
五戸	3	105	35	35	35									
三戸	3	105	35	35	35									
田子	2	70	35	35										
名久井農業	3	105	35	35	35									
八戸水産	4	140	35	35	35	35								
八戸工業	8	280	35	35	35	35	35	35	35	35	35			
南部工業	2	70	35	35										
八戸商業	4	140	35	35	35	35								

H22校舎制移行



平成25年度														
学級数	定員	4クラス				6クラス				8クラス				
6	240	40	40	40	40	40	40	40	40					△ 1
6	230	40	40	40	40	40	30							1
6	240	40	40	40	40	40	40							
5	200	40	40	40	40	40								
		募集停止												△ 5
1	40	40												
2	70	35	35											△ 1
2	70	35	35											△ 1
2	70	35	35											
3	105	35	35	35										
4	140	35	35	35	35									
7	245	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35			△ 1
		募集停止												△ 2
4	160	40	40	40	40									

地区計 58 学級 学級 2,165人

48 学級 学級 1,810人

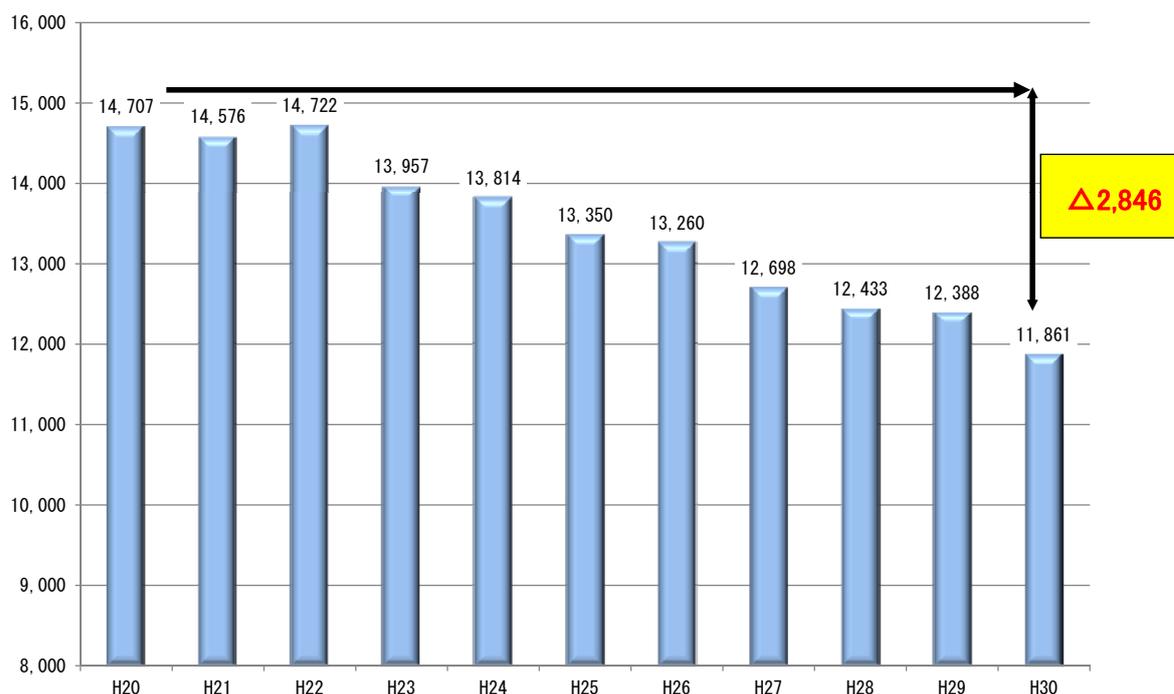
募集学級数増減 ▲ 10 学級 (学級(対20年))

募集定員増減 ▲ 355 人 (対20年)

4 今後の中学校卒業予定者数の推移

(1) 県全体の中学校卒業予定者数の推移（見込み）

平成20年度～平成30年度



各年3月の中学校卒業予定者数を示す

(2) 地区ごとの中学校卒業予定者数の推移（見込み）

※各年3月の中学校卒業予定者数を示す

	H20 (実績)	H21 (実績)	H22 (実績)	H23 (実績)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H25 - H30	
東青地区	3,262	3,268	3,357	3,097	3,125	2,970	3,022	2,957	2,917	2,958	2,837	△ 133	
西北地区	1,621	1,689	1,672	1,590	1,552	1,512	1,445	1,425	1,348	1,358	1,278	△ 234	
中南地区	3,122	3,067	3,150	2,838	2,897	2,862	2,720	2,580	2,550	2,561	2,374	△ 488	
上北地区	2,287	2,222	2,204	2,232	2,127	2,117	2,148	2,043	2,010	1,974	1,902	△ 215	
下北地区	896	865	817	839	837	781	798	766	705	712	727	△ 54	
三八地区	3,519	3,465	3,522	3,361	3,276	3,108	3,127	2,927	2,903	2,825	2,743	△ 365	
県計	14,707	14,576	14,722	13,957	13,814	13,350	13,260	12,698	12,433	12,388	11,861	△ 1,489	
参考 (前年との比較)	△ 530	△ 131	146	△ 765	△ 143	△ 464	△ 90	△ 562	△ 265	△ 45	△ 527		
参考 (5年前と比較)	△ 2,069						△ 1,357						△ 1,489

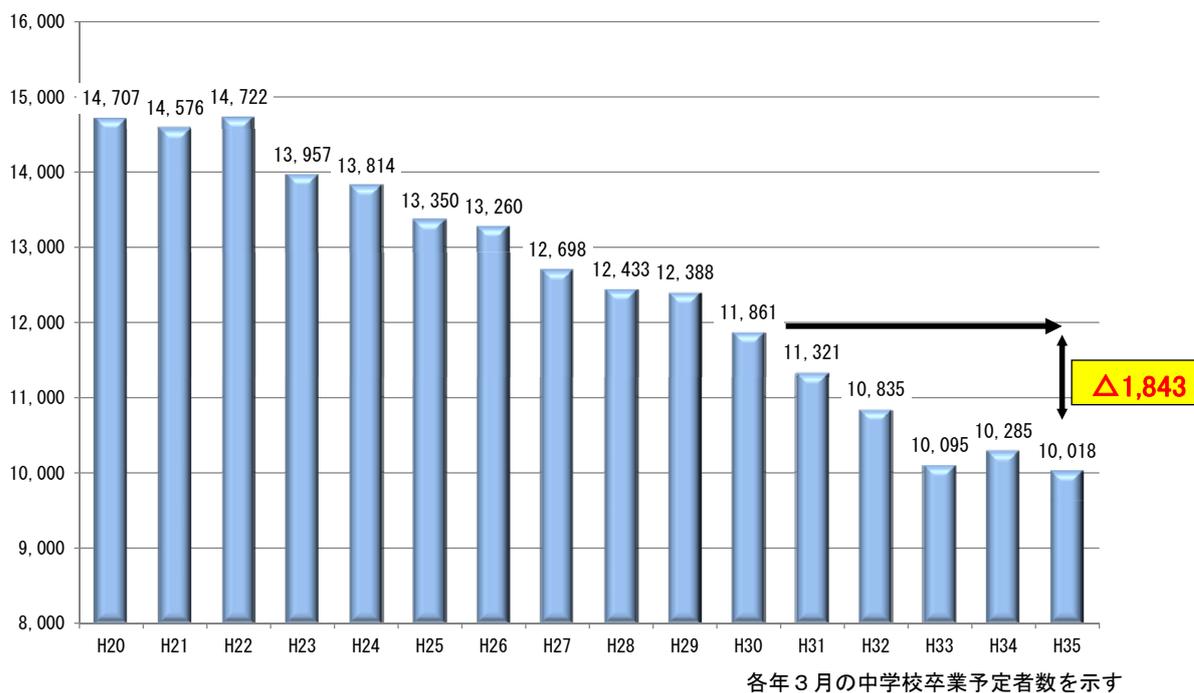
(3) 募集学級数 全日制課程 (見込み)

	H20	H23	H20との差	H25 見込	H20との差	H30 見込	H25との差
東青地区	62	57	△ 5	54	△ 8	51	△ 3
西北地区	34	33	△ 1	32	△ 2	26	△ 6
中南地区	55	51	△ 4	50	△ 5	42	△ 8
上北地区	51	49	△ 2	46	△ 5	41	△ 5
下北地区	20	20	0	18	△ 2	17	△ 1
三八地区	58	52	△ 6	48	△ 10	42	△ 6
県 計	280	262	△ 18	248	△ 32	219	△ 29

※各年度の募集学級数を示す。H25、H30については、H23.5.1現在の児童生徒数を基に一定の条件により推計した。

(4) 平成35年度までの県全体の中学校卒業予定者数の推移 (見込み)

平成20年度～平成35年度



5 今後のスケジュール

48

- ◎平成23年度 後期計画策定に着手
 - 8月 ・第1回地区説明会
 - 12月
 - ～1月 ・第2回地区説明会
- ◎平成24年度
 - ・具体的な実施計画【後期】（案）公表
 - ・パブリックコメント実施
 - ・第3回地区説明会
 - ・具体的な実施計画【後期】策定、公表
- ◎平成26年度
 - ～30年度 ・具体的な実施計画【後期】実施期間

49